

平成28年度 第3回新宿区子ども・子育て会議 会議要点記録

日時	平成29年2月13日（月）午後2時から午後3時48分まで
開催場所	新宿区役所6階第3委員会室
出席者 （名簿順）	神長美津子委員、高橋貴志委員、小高潤委員、齋藤宏子委員、前田香織委員、花島治彦委員、青野啓子委員、千葉伸也委員、西内隆昭委員、石渡登志江委員、青山章子委員、鶴巻祐子委員
欠席者	宮崎豊委員、勝川純子委員
開催形態	公開（傍聴者3名）
次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 会長挨拶</li> <li>3 議事 <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）新規開設の保育施設について</li> <li>（2）新宿区子ども・子育て支援事業計画の見直しについて</li> </ol> </li> <li>4 その他</li> <li>5 閉会</li> </ol>

1 開会

委員辞任に伴う新任委員紹介

2 会長挨拶

（会長） 本年度3回目の会議となるが、1年間が大変早かったと思う。子ども・子育て会議は、子育て支援施策の量と質の確保について、いろいろな角度からご意見をいただくことが趣旨であり、それぞれの立場から活発なご意見、ご要望等を出していただければと思う。

3 議事

(1) 新規開設の保育施設について

（事務局） 資料に基づき説明

（副会長） 「キッズタウン下落合保育園」の事業者の社会福祉法人は、北区でも高齢者施設と一緒に保育所を運営していたように記憶している。この法人からの提案に、高齢者のエリアに近いというメリットを生かした、保育実践上の特徴などが表明されていたら教えていただきたい。

（事務局） 今回の提案時に、特にそういう特色を生かした計画の内容は、聞いていない。

（委員A） 防衛省内の保育施設について、特殊な施設にある保育園だが、通常の保育園の申し込みと同じような手順で入所審査は行われるのか。

（事務局） この保育所については、既に入園の申し込みを受け、現在利用調整中であり、他の認可保育所や認定こども園と全く同様に決定させていただく予定である。

防衛省からは、提案を受けた時に、セキュリティをいろいろ強化しなければいけないので、例えば、外国籍の方のお子さんについて利用の制限はかけられないだろうかという相談はあった。しかし、保育所は、そのような理由で保育の提供を拒否できないので、利用の制限をかけることは困ると伝えた。

(委員 B) 資料 1-7 の「キッズタウン下落合保育園」は、旧中央図書館跡地にできて、西北地区は非常に待機児童が多い所なのでいいことだと思っている。ただ、屋外遊戯場の「せせらぎの里公苑」は、大人の足でも結構遠くて、子どもが歩いたらかなりの距離になるのではないかと少し気になった。近くにはおとめ山公園があるが、新目白通りを渡らなければいけないという懸念から、屋外遊戯場を「せせらぎの里公苑」にしたのだろうが、子ども達が余り遠くない屋外遊戯場を利用できるように何とかできないのかと思った。

この地域には戸塚第三小学校に学童クラブがあり、学童クラブに通っている子ども達が学校で遊んでいるのをよく見受けるが、距離やリスク、利便性を考えた上で、屋外遊戯場として使えるといいのではないかと思った。

(事務局) 面積基準等も考えて「せせらぎの里公苑」で事業者が申請してきたわけだが、ここに活動を限定しなければいけないということではない。開設準備をするに当たって、近隣で他にも子ども達が安全に、伸び伸びと過ごせるような所がないか等調べて、実際によりよい運営を目指していくことと思う。

(事務局) 保育指導課では、園庭がない保育施設が他の施設の園庭を利用できるような連携のしくみづくりを行っており、キッズタウン下落合保育園についても同様に支援をしていきたいと思う。また、せせらぎの里公苑まで距離が長いとご指摘があったが、保育の担当者にも行く時は十分注意するよう注意喚起を行いたいと思う。

また、先程ご質問があった高齢者との交流について、そういう多様な経験を子ども達に提供することは大切なことだと考えている。まずは保育の運営が安定した後で、交流について検討してもらおうよう働きかけていきたいと考えている。

(会長) 先程のキッズタウン下落合保育園について、資料 1-7 に事業者は鳥取県の社会福祉法人で施設へのバックアップ体制がとられていると記載されているが、バックアップ体制とは具体的にどういうことか教えてほしい。

(事務局) 例えば、職員が急に体調不良等で保育に入れなかった場合、本部から応援を送るとか、現場の職員が保育や保護者への対応で忙しい時に、本部の職員が区とのやりとりをするなど、他の法人と同様に役割分担でのバックアップ体制の提案である。

## (2) 新宿区子ども・子育て支援事業計画の見直しについて

(事務局) 資料に基づき説明

(委員 C) 資料 2 29 年度保育施設整備状況で、地域未定の 3 カ所に具体的な定員数が記載されているが、地域は未定だが、これだけ入る施設を探しているということな

のか。また、資料3の6頁(4)幼稚園の状況で、預かり保育や3年保育などの幼稚園ニーズに対して公私立幼稚園と認定こども園が緊密な連携のもとに対応していくことが強く求められるとあるが、公立と私立との連携とは具体的にどのようなものか、2点伺いたい。

(事務局) 資料2のご質問について、事業計画に基づき待機児童を解消するために必要な規模を過去の実績を基に試算し、定員のみ設定して予算要求をしているので、地域は未定である。

ただ、4月以降の待機児童の発生状況等により、区が当初想定したとおりの整備で対応できない場合は、定員や箇所数の見直しが必要になると認識している。

(事務局) 資料3の公私立幼稚園、認定こども園の緊密な連携のご質問について、昨今のニーズに対応して、平成28年度から区立幼稚園では3歳児定員を17名から20名に変更し、14園全園で3年保育を実施し、4園で預かり保育を開始したが、全体のニーズを、区立幼稚園だけで賄い切れるものではない。幼稚園やこども園は、学区域等もなく、広域的な区内、区外を問わずの連携が必要なので、相互補完的に情報の共有をしながら連携していくということである。

(委員A) 資料2の待機児童に向けた取り組みだが、よく0歳の4月に預けないと、その後1歳からは保育園に入れないとされている。そのため、新規の1歳児の枠がたくさん増えると聞いてワクワクした。しかし、0歳から1歳への持ちあがりを除けば1歳で新規に入園できる枠は微増に留まる。1歳枠を増やす考えはあるのか伺いたい。

また、資料3だが、学童クラブは、食事の提供や生活習慣、生活の援助が受けられる保育園とは違い、居場所だけになってしまうのか。養育環境が整っていない学童期の子ども達は、学童クラブで食事や生活について援助が受けられると考えてよいのか。

(事務局) 最初の質問について、平成29年の募集見込み数で申し上げると、0歳が約650人、1歳が450人で、0歳に比較して1歳の受入枠は若干少なくなっている。

新規開設園の場合は、1歳児についても丸々定員分の受け入れは可能だが、既存園については、1歳から入園できる枠は、0歳ほど大きくないのが現実である。

区では、空き保育室型定期利用保育という取り組みを新しく始めて、満1歳のお子さんを受け入れているが、受け入れ時間が午前8時半から午後5時までと比較的短時間勤務の方を想定しており、通常の保育園の利用と同じとはいえないが、今後も様々な形で1歳児の受け入れを増やしていきたいと考えている。

(事務局) 学童クラブは、養育環境が整っていない子どもが対象ではなく、保護者が就労等により昼間家庭にいない子どもを対象とした放課後の遊びと生活の場を提供する事業である。

基本的な利用料が1カ月6,000円で、延長利用の利用料は1カ月最大2,000円となる。生活保護世帯や非課税世帯は無料にしている。この利用料には、おやつの特

供も含まれており、生活保護世帯等にはおやつも無料で提供している。学校の長期休業中などで給食がない時は、お弁当を持参してもらい食事の提供はしていないが、学童クラブの事業の中で、皆と一緒に昼食を作って食べたりということは行っている。

(委員A) 民間の学童クラブは長時間対応で、夕飯の提供もあるが、夏休み中に毎日行くとさすがにきつくて、児童館型の学童などと併用して利用したいというニーズがあるように思う。学童クラブを2カ所利用することはできないとのことだが、もう少し柔軟に利用できるようになったらいいと思う。

(事務局) 学童クラブの二重登録ができないのは、夕方7時までとか通常の時間帯の保育を指している、実際に区の学童クラブを7時まで利用した後で他の所に行く子どももおり、それを禁止しているということではない。

(委員D) 他の区では0歳児の受け入れはしないところもあるので、保育所に預けて働くことだけではなく、母親は、家庭で養育する、育児をするという経験をしたほうがいいと思っている。育児のつらさとか、母親としての自覚を養う時期が、0歳の時は非常に大事だと思っている。

待機児童が解消されたから心配なく働けるという安心感ではなく、必ず社会復帰できるという安心感の中で、育児のつらさを経験したり、母親としての自覚を養うことの大切さを啓発していただければいいなと思う。

子どもが1歳になってから復帰することを区から指導し、そのための保育園の運営のしかたを工夫したり、企業からはそのための環境の整え方を指導していけると、そうした区の取り組みがあると新宿区のイメージも上がるのではないかと。とにかく預かってもらえるということだけが、メリットや魅力なのではないと思う。

新宿区が都会だからこそ、子ども達をともに育てる、他の家の子どもも一緒に育てるような愛情のあるコミュニティづくりをしてほしいと思っている。

(委員E) そういった取り組みは確かに必要だと思っており、幼稚園でも行っているところだが、この子ども・子育て会議でも、新宿区ならではのそういった取り組みをいろんな角度から考えて進めていけたらいいのではないかとと思う。

先ほど幼稚園の連携の話があったが、公私立幼稚園では、いろいろ情報交換をして連携を進めているが、まだまだ十分ではない部分があると思う。私立幼稚園では預かり保育をやっているが、学童の領域についても、まだまだ地域の園として活用できる部分はある。

ただ、預かり保育もお金がかかることになるので、区立幼稚園とはまだ差があるのが実際のところである。

学童や私立幼稚園は、保育園のように保育士の処遇改善に対する国の補助金がなく、保育園に比べ、学童や私立幼稚園への公的支援は一步も二歩も置いていかれているので、新宿区としてできることは何かないのか今後お考えいただきたいと思う。

(委員F) 本園では、長期休業中のみ私立・公立幼稚園の子どもも含めて、若干名だが有料の預かり保育をしているので、私立・公立幼稚園の方にも広くお知らせして

もいいのかと思った。

たとえば、今年のように感染性の胃腸炎がすごく流行した時に、年度末など仕事を休むのが難しい場合に、病児を受け入れている園はどのぐらいあるのか。

(事務局) 病児保育については、大木戸子ども園の施設で民間の法人が病児保育を行っており、新宿いるま保育園も病児保育を行っている。現在の利用状況は6割から7割程度で、区民の方にはかなり利用されている。

今後ニーズは増えていくだろうと思っているので、例えば居宅訪問など、施設型だけではなくいろいろな手法があるので、研究しながら区でも検討していきたいと思う。

(委員E) 病児保育は、その施設に連れていかないといけないので、子どもにとってみたら嫌だと思う。本来であれば、各施設で対応可能な整備が必要だと思う。

私立幼稚園ではお迎えにきてもらっているが、今は就業率も高く、なかなか難しいのも事実で、園で病院に連れていくこともあるし、何らかの対応を考えることも増えてきた。

先程の委員のお話のように、子どもが熱を出した時に会社が帰りなさいと言ってくれる世の中の方が本当はいいと思う。

もし今後、本当にやっていこうとするなら、各施設で最小限の対応室みたいな、病気の子どもに対応し得る環境整備を考えていくべきなのかなと思った。

(副会長) 今のお話に9割9分賛成で、そのうえでの質問だが、資料3新宿区子ども・子育て支援事業計画の概要の(2)地域子ども・子育て支援事業の説明に、すべての子育て家庭を支援すると書いてある。

普通に家で子育てしているお母さん達の中で広場のような所になかなか出ていけない、少し気の弱いお母さん達をどう見つけてサポートしていくかが、恐らくどこの自治体でも課題だと思う。事業計画では影が薄いような感じがしてしまうので、新宿区がいわゆる専業主婦と呼ばれているお母さん達の支援を、今度こんな工夫しますとか、少しアレンジを加えてみましたみたいなどころがもしあったら、検討中でもいいから教えていただきたい。

(事務局) 資料3の1頁(2)地域子ども・子育て支援事業の乳児家庭全戸訪問事業は、健康部が行っているが、全ての家庭を訪問して、課題を発見し支援が必要だと判断すれば関係課につないでいる。例えば、子ども家庭支援センターにつないで、ケースワーカーがアプローチしていくこともある。また、そのケースワークのツールの一つにホームスタート事業があり、研修を受けたボランティアの先輩ママが外に出てこられない家庭を訪問して、一緒に家事や子育ての手伝いをしながら広場につなげたり、外に出るきっかけをつくったりなどの支援をしている。

その他、子ども総合センターの親子支援のプログラムとして、少し課題のあるような保護者の方に来ていただき、親と子の広場で皆と一緒に遊べないような、なじめないような親子を対象としたグループワークも行っている。

(会長) 子育ての第一義的責任は家庭にあるというのが基本だと思うが、働いている、

働いていないに関わらず、親として子育てに責任を持つことが必要である。

どうしてもこういう会議では量の確保でどれだけ対応できるかということになるけれども、基本を忘れないことが大事で、先程のご意見のように、家庭や職場への啓発と関連しながら、この量と質の確保が議論できるようになると、少しでも質の確保に近づくのではないかと思いながら伺っていた。

(委員G) 資料1の新規開設保育施設は、全部、屋外遊戯場が代替の公園になっている。土に触れ、何かを育てたりできる場所が新宿区にはなかなかないので、園庭がないと結局子どもの生きる力や豊かな心を育てるための経験が乏しくなる。私の園も運動や水遊びができる場所がなく、探して1時間半かけて武蔵小金井の方まで連れていったりもした。

公立の保育園に通っていた方から、園外保育はバスで行っていたと聞いたが、私達も同じようにバスを利用することができるのか。子ども達にもっといろんな経験をさせたいが、そういう場所がなかなか探せなくて、介護施設やデイサービスと交流を持ちたいと思い、民生委員さんにもお願いしたが近隣にはなかった。

何かそういう所をうまくつないでくれたり、子ども達がもっといい経験ができるよう、区にお力を貸していただけたらいいと思う。ビルインの所が増えてきているが、こういう建物の中でもいろんな経験ができるというところでご協力いただけたらありがたいと思う。

(委員H) 先日も1クラス25人の子ども達を公園に連れていき、後から違う園の子ども達が30人位来て、顔見知りの先生達だと、今日はここからこっちで遊びますね、今日のうちは何歳なので滑り台は使わないで遊びますからどうぞとか、お互い譲り合いながら、うまく調整して遊んでいる。さらに園が増えるとバッティングする可能性が非常に高くなる。幼児が外で遊ぶというのは当然大事な体験で、保育園と同様に、公園の整備もあわせて考えていただけると助かる。

また、運動会もやはり遊戯場がなく、学校の校庭を借りて実施することも多くなっており、この面でもご協力をお願いしたいと思う。

私共の園でも夏過ぎくらいから見学に来られる方がたくさんいるが、できれば1歳までは自分で見たいという方も結構いる。自分が復帰したい時にうまく復帰できるような社会づくりもしていく必要があると思うし、両親が自分の子どもの成長に責任を持って、夢を実現されるような環境整備が必要だと思うし、その保護者の思いを一緒に見守ったり育てたりできる保育施設が充実することが大事だと思う。

また、子育てに悩まれる親御さんもいるので、信頼して相談できる職員の育成も大事なことだろうと思う。先程のお話にもあったが、保育士の処遇改善にはいろいろ予算もつけていただいているが、それでもなかなか集まらない今の状況で、幼稚園の先生を確保するのももちろん大変だろうし、また、学童保育の職員も質の高い学童保育を提供するため資格を求められたりしており、なかなか集まらない状況でもある。私共の法人でも児童館や学童保育の職員を募集してもなかなか集まらない。保育士以外の処遇改善についても区としてお考えいただきたいと思う。

(事務局) 区の学童クラブは27カ所あるが、平成16年度から順次委託して、現在は全学童クラブを委託している。委託開始当初はなかなか職員が定着しないとの話もあり、一定の見直しを図り、10年目ぐらいの区職員を基準に委託料の算定をして、一定の保育の質を保つための予算をつけた。

基本的には1年契約で、成績が優秀で一定の評価が得られた場合は5年まで延長できるので、その場合は、5年後にまたプロポーザルを募集する。各事業者には確実に人材を確保するプランを提供していただき、その中から事業者を選んでいる状況である。

#### 4 その他

(事務局) 第1期の新宿区子ども・子育て会議は、平成27年度、28年度、2年の任期で、本日をもって終了する予定なので、このメンバーでご審議いただくのは最後かと思っているので、時間の許す範囲で皆様のご意見を拝聴できればと思う。

(委員I) 私共の会社では、認可保育園、学童クラブ、児童館、あと東京以外でもさまざまな運営をやらせていただいている。各自治体から保育園を開設してもらえないかという話をたくさんいただく。保育園の開設費用に関しては、以前より自治体の補助金が増額されており、非常に財源が豊かになっていると思う。

ある自治体で、1・2階が保育園で、3・4階が高齢者事業の施設を開設するに当たって、1・2階の保育園は60人定員だったが、補助金が当時で3,000万ぐらいしか出なかった。3・4階はグループホームだったが、18人のお年寄りで1億円の補助金が出て、それが日本の現状だとその当時実感した。

今、保育園をつくるに当たって、3つ大きな障害があり、1つは保育士の確保で、保育士さえ確保できれば保育園を増やしたいと思っている法人は、たくさんいると思う。

認可保育園に関しては国の支援や東京都も力を入れているので、処遇改善が多少進んできているが、東京都と他の自治体の格差が出てきていて、周辺の自治体が厳しくなってきたという現状がある。本当に国を挙げて処遇改善を進めていただきたい。

2点目は、保育園の物件がなかなか見つからないということ。定員が30人ぐらいまでだったら近くの公園があればいいと思うが、それ以上になると敷地内に園庭がないと厳しいかと思う。

3点目は近隣の問題で、新宿区では余り聞かないが、都市部だと必ず近隣の問題が起こる。保育園は迷惑施設だと思われるところがあるので、行政にもご協力いただきたい。

(委員D) 会議でのメインのテーマが保育園の確保、待機児童ゼロであったと思うが、やはり問題はそこだけではないと感じている。

私は、保育園も幼稚園も両方、上の子と下の子とで経験しているが、お母さんや保護者の質が大きく違う。新宿区はすごく多様性がある地域でもあると思うので、

外国籍の問題や、発達障害の子どもや学びの教室の件など、いろんなことを抱えながら皆さん生きている。

子どもの預け先の確保も大事だが、親の教育、親がどう意識を変えるかで子どもの育ち方だったりとか、彼らの未来が変わってくると思う。子どものために身近な保護者をどうするか、委員としてそういった現状をもっと伝えていきたいと思い私は立候補したが、区にも聞いてくれる体制をとっていただきたいし、そういった開かれた行政を目指していただけたらいいなと思っている。

働きながら、また、働けないお母さん達の叫びだったりとか、そういったものを網羅できるような環境が整えられるといいし、今後また会議等で議論されていったらいいなと思っている。

(委員 A) 私は結婚して新宿区に引っ越してきて、地縁がない所で出産し子育てが始まったので、本当に小児科一つどこに行ってもいいかわからない子育てだった。

お母さん達が一番育児で悩まされるのは1カ月ぐらいの時だが、他の区で、ゼロから6カ月の預かり事業をやっていると聞いて、見に行った。

預かっている方は専門職じゃない地元のおばさん達で、「赤ちゃん可愛いわね」って、一対一で赤ちゃんを抱っこして、100円で2時間見てくれる。地元でずっと住んでいる方達なので、「小児科だったらどこがいいわよ」と教えてくれたり、通常だと断絶があるような世代をうまくつなげて、地域の資源を知っている人から若い人に連携しているプログラムで、新宿区にもあったらいいなと思った。

地縁がない所で地縁がないまま引っ越していく家庭が多い中で、新宿区で生まれ育った方とうまく自然につないでいただけるといいのかなと思っている。

また、私の子どもが通っていた保育園で、親から保育園への要求がすごく膨らんで、大きなトラブルになり、先生が疲弊して大勢辞めてしまったことがある。

保育人材の確保の問題は低い賃金だけではなく、保護者との関わりで先生が疲弊していることもあると思う。うまく親の教育というか、何かそういったものができるといいと思った。

(会長) 親を教育することはとても大事なことだと思うので、一保育士、一園ではなかなかできにくいことも、こういった会議でアイデアを出していただきながら、子育てを助けていくような仕組みが徐々に広がるといいと思って伺っていた。

(事務局) 同じような課題認識は区も持っている。保育士の役割の一つに保護者支援があり、子どもの保育だけでなく保護者支援についても、頑張っている保育士の皆さんに区としてどう支援していくか、今検討を始めたところである。

また、代替の遊戯場だけでは足りないという話で、物理的にないものについては非常に対応が厳しいが、園庭がある所と、ない所との橋渡しをするため、昨年の上半年で区が所管する保育施設を区立、私立も含め対象にして、園庭の有無、戸外活動、夏の水遊びなどがどの程度行えているかという調査を行った。

ほとんどあるいは全く行えていないという回答があった施設の橋渡しをまず行なった。どうしても一件一件つなげなければいけないので時間がかかるが、引き続き

調査結果に基づきながら、必ずしも戸外活動とか水遊びだけでなく、もう少し発展したところでの交流などについても、できることをやっていきたいと考えている。

公園でのバッティングの話だが、かなり以前から出ており、近隣の保育施設間で顔の見える関係が大事だと思っており、区立、私立保育施設のグループを区内の地域で5つ程度に分けて区域割りをした。区立園がまずは中心となり、園内研修をやる時に声をかけたり、懇談の場を設定して、情報交換ができるようにしたり、現在取り組みを進めている。

(副会長) 子ども・子育て会議は、子どもという名前がついているが、必然的に周りにはいる大人たちを巻き込むようなテーマだと改めて感じた。

例えば、高齢者と子どもの交流を考えた時に、子どもにとっても、高齢者にとってもいいことである。また、生涯教育とか生涯学習などの絡みで親の育ちを支援していくみたいな視点もあると思う。

今ダブルケアの問題がどんどん出てきて、子育てをしながら親の介護もしなければいけない方々がこれから増えていくだろうし、恐らく新宿あたりは、どんどん出てくると思う。

子どもだけではなく、高齢者の問題とも絡んでくるので、子ども部門の人、高齢者部門の人、生涯学習部門の人が協働して新宿区民全体の底上げをしていくような雰囲気のある会議体が、1年に1回でもいいからあると、何か化学反応が起きていい考えが出てきたりするのではないかと感じた。

(会長) 子ども・子育て会議の場を使いながら、もう一度子どもを育てるという原点に戻りながら、それぞれの立場で何ができるかということを変更して考えてみるのが大事だし、行政がこういう会議を持つことによって意見交換が深まっていくということが、子育てしやすい新宿のまちをつくっていくのだと思う。

## 5 閉会